

みんなで語る会報告書

- 開催日時：平成27年12月17日（木）（19時00分～20時30分）
- 開催場所：今和泉校区公民館
- 参加者数：【市民】33人、【市職員】市長ほか15人、【総計】49人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 地域代表あいさつ
- 5 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

J Aいぶすき新西方支所から細田後地区を抜けて県道に出る市道は、アスファルトがはがれて市の土木課に穴埋めをしてもらっている。このような状況の道路が、市内には多いのではないだろうか。計画的にアスファルトのやり直しを行うことはできないものか。

<建設部長>

ご意見のあった市道「鳥山細田西線」は、確かに舗装の劣化が進んでいるようである。交通量によっても異なるが、通常、10年を経過すれば舗装の劣化が進むと言われている。市内各地において、同様の劣化が数多く見られ、側溝の未整備箇所も多くある。945路線ある市道のうち、現在、計画路線として挙げられているのが230路線ほどで、過疎債という起債や国の補助事業等も利用しながら整備に努めている。今後も計画的に道路改修等を行い、安全確保に努めたい。何かあれば、館長さん等を通じて、市の土木課にご連絡いただきたい。

<市長>

情報をいただいたので、私も直接見に行きたい。この会で出されたという重みを考え、応急処置等の対応をとりたいと思う。

【市民】

細田東前地区には小学生がおらず、中学生も1～2人である。鹿児島市の南部は指宿からの通勤圏内であるので、市が若い夫婦世帯に格安で土地を提供するなど、若者の定住促進を図る企画を考えてほしい。

<市長>

定住促進については、ほとんどの地区で意見が出される。若い人たちに、どのように地域に住んでいただき、子供たちを増やしていくのかということも話し合われた。新永吉地区には鹿児島から若者夫婦が移住しており、30数年ぶりに子供が誕生した。「若者が住むと、地域は元気になる。何とかしなければならぬ」というのが、館長さんの意見であった。定住促進については、議会でも話題になっている。

<総務部参与>

定住促進のための宅地分譲については、市のホームページや広報誌で周知に努めている。ただ、若者夫婦に限っての土地の提供は行っておらず、広く公募をしている。もう一つ、定住促進のための事業が、家を建てたときに補助金を給付している。対象は、指宿市に一度も住民票をおいたことがない方で、50歳以下の方が新築した場合には、100万円を上限に補助をしている。50歳を超えて

60歳以下の方も、50万円の補助を行っている。今年になってから、対象を指宿市全域に広げた。

格安で土地の提供をというご意見であったが、今、市有地の売却を行っており、市のホームページでも広報している。土地開発公社が宅地分譲し、「いぶすき菜の花団地」24区画を売り出しているが、すでに14区画が売れた。坪単価が8万円ほどするが、温泉付きで、そこに家を建てるときに土地開発公社が指定する9業者に家を建ててもらおうと、土地代からさらに50万円の割引をする制度もある。また、魚見小学校区の五郎ヶ岡にも1つ物件を売り出していて、約190坪の土地を坪42,000円で売りに出している。また、指宿市役所周辺で区画整理をしているが、そこでも5区画ほど売りに出している。他にも、教職員住宅を売り出すこともある。今和泉駅裏の教職員住宅も売り出したが買い手がつかず、価格を表示して売り出す予定もある。そのような情報を、ホームページや広報誌に出すので見ていただきたい。

<市長>

細田東前、そして今和泉から鹿児島は近い。そこを、どうするのか。若い夫婦が住みたいと言ったときに、どのような施策をうてば良いのかということだと思う。具体的な例があれば、公民館長や地元議員に情報をいただき、ここに住みたいという気持ちがおこるような取組をしなければならぬ。色々な面で、定住促進を図るための幅広い施策を取り入れなければ、人口減少は食い止められないと思っている。

【市民】

校区公民館は、災害等の避難所にもなっている。避難してきた高齢者や、公民館を利用する方々が、安心して使用できるよう洋式トイレ、できればウォシュレットへの早急な改修をお願いしたい。

<市長>

校区公民館を含め、公共施設には洋式トイレが必須になってくると思う。特に公民館は、子供からお年寄りまで使う場所である。家で洋式トイレを使っている子供やお年寄りは、なかなか和式トイレを使うことができない。陸上競技場等で徐々に洋式トイレに替えているが、切り替えは急務だろう。公民館についても、できるだけトイレの改修を進めてほしいと教育委員会にお願いしている。

<教育部長>

これまで各校区から、洋式トイレへの改修の要望が寄せられている。指宿地域の校区公民館の中で、洋式トイレが未設置となっているのは、今和泉・柳田・魚見の3校区である。トイレ使用の際に高齢者等の使用に支障をきたすこともあるので、市としても早急に改修したいと考え、今年度、未設置の3校区公民館のトイレ改修の設計を実施した。工事については、3か所同時に整備するのは予算の関係で難しいので、年次的に早めに実施したい。

なお、ウォシュレットについては、家庭への普及や、サービス業の店舗にも設置されているが、市の施設整備では普通設備の設置が基本となっている。また、ウォシュレットが故障した場合、便器自体を取り替えなければならない。これらの理由から、校区公民館や各学校においては、ウォシュレット機能付きの便器は設置しないようにしている。

<市長>

現在、洋式トイレへの改修の基本設計をしている。可能な限り早く行うので、もうしばらくお待ちいただきたい。

【市民】

トイレの改修費用は、1基あたりどの程度かかるのか。

<教育部長>

3か所のうち、一番安い所で300万円、一番高い所で400万円程度となっている。例えば、男子トイレが3基あれば、広さの関係で2基にする等、壁を動かす工事も入ってくるので、そのような値段になってくる。

<市長>

家庭であれば、和式トイレの上に簡易トイレを置く方法もできるが、公共的なものは安全で、みんなが使いやすいように、しっかりしたものをつくらないといけない。

【市民】

なのはな館が、鹿児島県から指宿市へ譲渡されるとの報道がある。維持管理費用が多額になるとのことで県は閉館したはずだが、今後、どのような運営がなされるのか。また、一部解体をすることだが、どのような計画になっているのか。

<市長>

県が運営していたときには、陶芸や生涯学習講座等の事業費を含めて2億円位かかっていたと言われている。これを市が受けた場合には、できないだろう。まず市民が、なのはな館の利用について良かったと言えるような譲受けをしなければならない。建物の一部を壊して、運営コストがあまりかからないように、かかったとしても、それだけの事業効果が得られるような計画をしている。

特異な形をしており、造ってからまだ15年程度である。壊していただきたいと言うのは簡単であるが、県としてはまだ20億円から負債が残っている。一番、維持費がかかっていたのはプールや温泉で、宿泊利用もあまりなかった。そこで、簡易宿泊所、温泉、プールのある棟は全て壊そうかと県と話をしている。視聴覚室や講義室など、今後、市として使えるような所は残し、県から改修費をいただき改修したい。ゲートボール場の雨漏りや、中央ホールを今後どうするのかといった問題については、今後、大規模な補修があると大変なので壊した方が良いのではないかという話が覚書の中では出ている。

この前の議会の中で、まだ使えるのではという話もあった。やはり、市民の意見をお聞きし、なのはな館の利用の仕方や、壊す部分をどのようにするのか等、皆さんにお示ししなければならない。

<総務部参与>

なのはな館については、10月に県と覚書を交わした。どのような形態で使用すべきか、「なのはな館利活用構想」をまとめた。市民の方々も参加して一緒になって考えていただき、健康づくりの支援、文化活動の支援、地域活力の支援の三つの大きな柱を設けた。一つ目の健康づくり支援とは、指宿市民一人当たりの医療費が非常に高いため、高齢者健康体操教室や健康運動教室、栄養指導等を行ったかどうかというものである。二つ目の文化活動支援とは、講演会やシンポジウム、演劇公演等を行ったかどうかというものである。三つ目の地域活力支援とは、産業まつりの会場としての利用や、共生協働のまちづくりのための地域団体との相談窓口を設置してはどうかというものである。この三つを、指宿市は構想としてまとめ、進めていこうとしている。

4月以降、県から施設を引き継ぐとなると、この構想に基づき、地域団体やNPO法人等の民間の方々にも参加いただき運営をしていこうと考えている。

<市長>

今後、一部利用をするにしても、維持費や管理費が莫大なお金にならないよう、県と色々と話し合っている。なのはな館は、施設として立派な建物で頑丈な造りである。また、あの界限はにぎわいのあるイベントの多い所であり、うまく使う方法がないか検討を重ねてきた。県と最終的な合意をした上で、議会にも最終的な方針をお示しし、市民の方々への説明も必要であると考えている。ご意見をいただきたい。

【市民】

学校のあり方を考える会が組織されてから2年が経つと思うが、現在、池田小学校と西指宿中学校はどのような状況なのか、どのような方向に進もうとしているのか。また、形として目に見えてくるのは、いつ頃になるのか。

<市長>

5年後、10年後の学校がどのようになるのかを観点に、学校のあり方・再編について話し合ってきた。特に、山川地域・開聞地域においては、利永小学校などの複式学級で効果的な教育ができるのかどうかについても、様々な意見をいただき教育委員会がまとめている。

<教育長>

子供だけではなく、大人も人口が少なくなってきた。そのような面で、考えていかなければならない大きな課題である。「指宿市の学校のあり方について考える会」では、指宿地域、山川地域、開聞地域の三つの地域部会を設け、昨年度から2年間かけて、望ましい教育環境に関する事、学校施設の整備計画に関する事等について調査・検討を行っていただいた。その結果等を、各小

学校区・中学校区で説明会や検討会を開催し報告し、市民から直接、ご意見をいただいたり、または、アンケート調査に答えていただいたりした。

そのような中で、指宿地域部会では、寄せられた市民の声を踏まえながら話し合いを重ねているが、旧指宿地域の小学校は児童数が40人の学校もあれば、600人近い学校もある。児童・生徒数に差があることや、各学校の課題等が多岐にわたり、一概に課題解決にはつながっていないこともあり、指宿地域部会では、学校再編に向けた意見集約は行われていない。今後も、さらに市民の皆さんのご意見を伺いながら、検討を続けていかなければならないとの報告をいただいた。

教育委員会としても、様々な機会に声をお聞かせいただいているので、新しい時代に生きる児童・生徒を育てるための学校には、どのような環境が必要なのか、どのような校舎や施設整備等が必要なのか、さらに検討していかなければならない。そのような状況であるので、池田小学校と西指宿中学校を具体的にどうするということまでは話題が進んでいない。

この学校のあり方については、地域コミュニティづくりと大変関わりがあるので、保護者や地域の皆さん方のご理解をいただきながら進めなければならないと思っている。今和泉小学校と西指宿中学校をどのようにしたら良いか、皆さん方からご提言いただけるとありがたい。

<市長>

垂水市では五つの中学校が一つになり、様々な部活動が活躍するようになった。根占も四つ位の中学校が一つに、東郷は小・中学校が一つになった。流れとしては、今後の児童数・生徒数を見込みながら、ある程度そのような方向になるのは事実である。

今年の4月1日から、大口の中学校が一つになった。なぜかと言うと、部活をやりたくても合同でしなければできない。西指宿中学校の野球部も、南指宿中学校と一緒にしている。我々が経験してきたことが、学校でできなくなった。もう一つの大きな問題は、中学校9教科の専門の免許を持った先生方がそろわないことである。配置させることができず、国語の先生が英語も担当せざるを得なくなる。様々なことで、子供たちのためにどうしたら良いのか。まさに、保護者と住民の選択だろうと思う。流れとしては、他の市町では薩摩川内市のように、どんどん進めているのが現状である。

本市においては、どちらが良いか、皆さんの声を聞こうという流れになっている。山川・開聞の中学校は早く一緒にして、子供たちが満足して部活や授業ができるような学校になった方が良いというご意見が多くの方々からあった。また、ご意見をいただきたい。

【市民】

なのはな館でも2,000メートル位掘れば、真水で高い温度のものが出てくると思う。もし、高い地熱を回収できれば、その地熱でバイナリー発電をしながらプールも温泉もまかなえる。そのような計画を検討してみる価値は、あるのではないか。

また、指宿は地熱が豊かな所で、全国的にも平地に地熱発電所があるのは山川だけである。指宿は、非常に恵まれた地域である。市も土地開発や発電事業を公営事業としてできるようになっているので、安くで電気と土地を販売し、企業や若い方々に来てもらえるよう全国に呼びかければ、かなり有効な事業になると思う。ここは鹿児島にも近いので、有望な地域である。余っている土地を市が借り上げて地熱開発をしていくことで、人口も増え、色々な問題を解決することができると思う。

<市長>

人を呼んで来るためには、指宿の資源である地熱を利用した方が良いだろうという意見をいただいた。なのはな館については、温泉を含めて、民間企業への公募も行ったが、なかなか集まらなかった。見に来てやろうという企業もあったが、最終的には採算的に難しいということでご破算になった。県も市も一緒になって、民間を含めて、その利用の仕方について協議し、ある程度の方向性は決まった。今の意見については、他で活かせるような所があれば頑張っていきたい。

【市民】

なのはな館の一部解体にかかる費用は、県と市のどちらが負担するのか。

<市長>

全額、県が負担する。

【市民】

なのはな館の、ロケットのような形をした建物を壊すといった内容は覚書にあるのか。もし、雨漏り等の補修をする場合は、特注の足場をしないと工事ができないと聞いたことがある。それが原因で、採算がとれないと民間事業者が手を引いたのではないだろうか。取り壊しには、どの程度の費用がかかるのか。もしくは、そのまま残して活用するのか。

<市長>

後年度に大きな財政的負担が生じるような所は壊そうというのが、今の覚書である。ロケットのような形の建物についても、今のところは壊す予定である。市が使う場合には、ある程度、補修費も県が負担するようになっている。難しい交渉を経て、現在、つめの段階である。県は、まだ 20 億円から負債が残っている。しかも、なのはな館は、指宿市に造ってもらいたいと議会を含めて、みんなで何回も要望に行っているようだ。間もなく、皆さんには方向性を出す、議会には覚書の内容については説明している。

【市民】

西指宿中学校から池田方面に向かう道路が暗いので、防犯灯を設置してもらいたい。

<市長>

実際に見て、どのようにした方が良いか連絡したいと思う。

<総務部長>

各集落では安全灯として設置し、商店街では通り会が協力して街灯を設置している。防犯灯については、要望が多く予算的に厳しいため、すぐに設置できるものではない。防犯灯の設置基準は、幹線道路の地区の間や通学路に設置することを基本としており、道路照明などの光源から 70 メートルから 100 メートルにわたり照明がない場所や、設置間隔が基準を満たしていない場合であっても、曲がり角や建物の影などの暗い場所には実態を調査して設置している。

西指宿中学校から小牧に行くところには、小牧の皆さんが平成 5 年頃に宝くじ助成金を活用して設置された。西指宿中学校から池田についても、新しく設置された信号から下門の間に結構暗い場所もある。設置するとなると、何箇所程度必要になるかを含めて、現地を見て検討したい。

<市長>

すぐに、現地を見てみる。やはり、子供たちの安全が一番である。

【市民】

西指宿中学校の体育館を利用する際、夜の 8 時に玄関前のボックスに鍵があるので借りに来て、10 時頃に返しに来るが、先日、見知らぬ人が玄関に座っていたとの情報があった。駐在にも巡回のお願いをしたが、防犯カメラの設置をしてもらうことは可能か。

<市長>

事故があってからでは、どうしようもない。教育委員会を含めて実態を調査し、その結果を伝えたい。

子供たちの教育環境については、各学校の校長室・職員室・図書室に空調を入れた。夏には 35 度になるような部屋で先生方は会議をしたり、子供たちが本を読んだりしていた。これで本が読めるのかというご意見をいただき、すぐにやろうということで設置した。運動場の砂の整備も行い、耐震を含めて教室の環境整備にもここ数年で、相当数の予算をつぎ込んだ。子供たちのために何とかしてもらいたいというのが、地域の声だと思ったからである。今回のご意見についても、すぐに調べたい。

【市民】

防犯灯については、市に要請をしても順番があるということで設置は困難であった。10 年程前に、今和泉小学校・池田小学校・西指宿中学校の P T A 会長・副会長で協議したところ、建築会社の方

がいて、電柱は誰が持って来る、電気は誰が持って来ると決まり、役員や保護者を集めて、毎日、作業を行った。現在、幸屋から石嶺まで続いているものである。この校区内にも、廃材など電柱の部品等はあると思う。誰かがリーダーとなり、そのような方法もあるのではないだろうか。

<市長>

できるだけ早く、教育委員会と危機管理課で実態を調べる。そして、事故があってからではどうしようもないので、そこは判断したい。

【市民】

市営住宅の入居率は、現在、どの程度あるのか。今後、市営住宅をもう少し造り、若い人たちを定住させるという考え方はあるのか。平川の交差点も良くなり、鹿児島への通勤もしやすくなった。住宅地を良くして若い人たちを定住させれば、児童・生徒数も増えていくと思う。

<市長>

地方創生の柱であり、人口減少を食い止めるために、地域と一緒に行政はどうするのかというのが一番の今の課題である。貴重な意見をいただいた。

<建設部長>

人気のある住宅もあれば、すぐに入れる住宅もある。市でも、公営住宅の長寿命化を図るための計画を作り、大規模な改修工事や、室内の設備改修等を進めている。古くなった住宅については、建替え予定のものもある。空き状況等については、市建築課に問い合わせさせていただきたい。

<市長>

若い人たちが住めるような環境づくりは、大切だと思っている。Iターン・Uターンを含め、どのように定住促進の取組を進めていくか施策を考えていきたい。

【市民】

道の駅下の海岸線は、県議や市議にも現地視察をしてもらったが、対応が進んでいない。住宅もあり、台風等による大きな被害も心配される。

<建設部長>

館長や市議からも話を聞いて対応しているところであるが、現場は一般海浜地という位置付けになっており、どこが管理をするのかはっきりしない地域である。そのような地域については、県が管理するように法律上はなっているが、何らかの整備をするには区域設定をしなければならないため、県と協議しているがなかなか前に進まない状態にある。現時点では、陥没等の兆候が見られた場合は、市の方で補修工事をするようになっている。全面的な改修をするには、市の方では手が付けられない状況である。

<市長>

住民にとっては、県がしようが、市がしようが、安全であれば良い。この語る会でも意見が出たということで、話し合いを早急にして結論を出さなければならないと思う。

【市民】

毎年、校区内の子供たちが、知林ヶ島で宿泊キャンプをしている。しかし、ここ2～3年は使えない状況である。今年も、長雨で階段が使えない。水も電気も無い所での、サバイバルキャンプを計画中であるが、工期はどのようになっているのか。

<産業振興部長>

昨年、一昨年と、海岸から上がる所が2回崩落して、昨年の梅雨時には大規模な崩落が起きた。市としては、九州環境事務所に早急な対応を要請した結果、環境省が抜本的なやり直しをしようということで、昨年度は熊本森林組合が基本設計を行っている。それに基づき、今年度は実施設計をし、その後、具体的な工事に取り掛かると聞いている。現在のところ、具体的な工期に関する情報は入っていないが、市民からそのような声を多く聞くので、再度、環境省にもなるべく急いで整備するようお願いし、いつ頃から着工するのか情報を得て、市民への広報をしたい。

また、島内が荒れれば、取り付け道路ができて散策等をする事ができなくなるため、島内の遊歩道ならびに施設については、定期的な草刈りやメンテナンスを市が行っている。

<市長>

できるだけ早くしてもらえよう、私も含めて要望していきたい。

【市民】

今和泉小学校では、授業の一環で海水浴を行っている。昔は、どこでも海水浴ができた。指宿港の海岸整備を行っているが、魚見を含めて良い海水浴場になりそうな場所が多い。海水浴場があれば、子供たちも外に出て遊べると思う。

<建設部参与>

指宿港海岸では、国の直轄事業で海岸整備が行われることになっている。ワークショップ等で市民からの意見をいただいているが、その中でも、海水浴場の整備について強く要望がなされており、今後検討していきたい。

<市長>

市民が本当に満足できるような指宿らしい海岸を取り戻すためには、海水浴場は必須である。市民からの声も高いので、どのようなことがあっても海水浴場の整備をしたい。

【市民】

於一の像や手水鉢を見た方は、隼人松原をゆっくり散策している。ライオンズクラブ等が設置しているベンチを有効活用し、篤姫公園といった名称をつけてPRしてはどうか。

<市長>

東屋もあり、観光の面からもありがたい意見である。

【市民】

子供の医療費助成は中学生まで無料となっているが、病院の窓口で一度支払い、後から返ってくるという制度になっている。窓口での支払いをしなくてもすむようにできないものか。中には、貧困のために、子供を病院に連れて行けないという家庭もある。

<市長>

市長会としても、県にお願いをしている。国にも働きかける。議会でも意見をいただいております、引き続き強くお願いしていきたい。